



高山西ロータリークラブ

No. 2190 回 例会 平成 22 年 11 月 26 日

国際奉仕委員会

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 鍋島 勝雄
- 幹事 中村 良平
- 会報委員長 粟原 藤義



「秋・奥山紅葉」 脚手 康介

<会長の時間>

副会長

折茂 謙一

先日国島高山市長
がご臨席され、その時、
高山市の今後の発展



は我々ロータリーを始め市民の活躍が期待される、行政は前例のないことにもバックアップをする方針である旨お話しされました。その柔軟で明るい姿勢に希望が持てます。また鍋島会長の方針は、ロータリー活動は重要であるが基本は個々の企業であるというお考えですので、本日はそういうことに関連した書物の紹介をします。

題名は『成長の原理』著者は上原春男です。上原氏は佐賀大学の理工学部の先生で、研究テーマは「海洋温度差発電」という夢のようなエネルギー開発です。これは海の表面の温かい海水と深層の冷たい海水の温度差を利用して電気エネルギーを取り出すというシステムです。海水という無限の資源を利用して二酸化炭素排出とも無縁です。発電だけではなく環境汚染問題、食糧問題、水不足など地球を救う夢のエネルギーとして世界の注目を浴びています。

この研究を通じて人間の関係する科学、産業、国などに共通の成長の原理がありそれを体系化しました。たまたま企業経営者がそれを応用して、中小企業から大企業の会社が生まれました。著者は地元で『チャレンジ100』という研究会を作り、年商100億円を目指すという活動をしています。企業の成長の原理を要約すると、以下ようになります。

企業は生き物であり必ず限界がくるので、それを突破して発展、成長していかなければいけない。企業の利益はお客様に心地よさをもたらすことである。そこから企業の利益は発生する。それと同時に社員の心地良さも大切である。社長の役割は、大局的視野を持ち企業を成長させるという信念が大切である。

<幹事報告>

◎RI日本事務局より

- ・12月のロータリーレートについて 1ドル 82円(現行どおり)

◎濃飛分区ガバナー補佐より

- ・濃飛分区IM報告書

<例会変更>

可茂 …… 12月8日(水)は、清掃作業及び幼虫放流のため、
5日(日) 8:00~ 坂祝町迫間川 に変更

桑名北 …… 12月16日(木)は、イヤーエンド例会のため、

桑名シティホテル に変更

12月23日(木)は、祝日(天皇誕生日)により休会

12月31日(木)は、特別休会

<受贈誌>

高山RC(会報)、台北東海RC(会報)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	36名	9名	45名	45名	100.00%
本日	34名	—	34名	44名	77.27%



地域を育み大陸をつなぐ

例会報告

<本日のプログラム>

国際奉仕委員会

国際奉仕委員長

新田 敬義

高山西ロータリークラブも友好協会の会員である、デンバー姉妹都市提携50周年記念式典が、今年4月高山で盛大に開催されました。



長年国際担当で活躍されている、高山市地域政策課の田中課長様をお迎えして、デンバー市との国際交流について、また異文化交流等について卓話をいただくことといたしております。

田中さまは大学在学中にデンマーク政府奨学金を受け、コペンハーゲン大学に1年間留学。昭和62年市役所へ入庁してからは、16年間国際担当された庁内きっての国際派と伺っております。

本日はよろしくお祈りいたします。



高山市とデンバー市 姉妹都市提携50周年の歴史

高山市企画管理部 地域政策課長 田中 明 様

現在、私自身は直接姉妹都市交流の担当ではありませんが、市役所に入ってからすぐに国際担当を経験し、以来、仕事を通じてあるいは個人的にデンバー市との交流に関わらせていただいています。

国際姉妹都市交流は、アメリカのアイゼンハワー大統領が、世界の都市が交流をすることによって世界平和を実現させるために提唱をしたものです。

高山市とアメリカ、コロラド州デンバー市は昭和35年(1960年)に姉妹都市提携を結びました。現在、日本の海外都市との姉妹都市提携の数は約1,600ありますが、当時は岐阜県下では初めて、全国でも30番目というもので、山間の小都市が海外の都市と姉妹都市提携を結ぶことは、当時

提携に関わった方々の英断であり、高山市はその時点から国際都市としての歩みを始めたのではないかと思います。

今年はその姉妹都市提携から50年を迎え、様々な記念事業が行われました。4月には春の高山祭に合わせてデンパー市から使節団が訪れ、両市間において文化や経済交流などを今後も促進するという共同宣言を行った他、記念植樹などを行いました。高山市とデンパー市職員の相互派遣研修も行われ、現在、両市役所で職員が研修を行っています。

6月末から7月初旬にかけては、高山市から総勢90名ほどの使節団がデンパー市を訪れました。使節団には和太鼓や琴、尺八など邦楽演奏、お茶、着物、書道、仕舞など日本文化を紹介する皆さまが参加され、毎年デンパーにて開催されるチェリークリークアートフェスティバルにて、来場者のために文化を紹介されました。

また、11月にはデンバー・ムニシパルバンド(DMB)の室内アンサンブルのメンバー7名が高山市を訪れ、高山市民吹奏楽団とのジョイントコンサートを開催したほか、久々野中学校や荘川にてコミュニティーコンサートを開催し、中学校では吹奏楽部員を対象にブラスクリニックを開催するなど、音楽を通じた交流が行われました。特に、DMBと高山市民吹奏楽団との交流は1994年に市民吹奏楽団がデンパー市を訪問してジョイントコンサートを開催して以来、相互訪問をしての演奏会、楽曲の交換など、正に万国共通語である音楽をとおり交流を深めています。

若者たちの交流を象徴するものとしては、昭和58年から高校生相互派遣が行われており、これまで実に多くの高校生たちが、ホームステイや異文化体験を通して友好を深めています。初期にその派遣事業に参加した若者が青年会議所のメンバーとなり、高山青年会議所とデンパーのチェリークリーク青年会議所との姉妹提携までこぎつけ、ボランティア活動に参加するなど今でも活発に交流をしていることは、高校生交流プログラムの理念を体現しているものではないでしょうか。

両市の交流には、行政だけではなく、高山デンパー友好協会やデンパー高山姉妹都市委員会の皆さん、交流を行っている各団体など、実に多くの皆さんが関わって来られました。そのような中で、両市の交流に少しでも関わることができて、私は非常に幸運な人間であると感謝しています。また西ロー

例会報告

タリークラブの皆さまの中にも、デンパーとの関わりが深い方がおられることは、非常に心強く感じています。

国際交流は私のライフワークでもあり、アイゼンハウアー大統領の提唱を少しでも実現できるよう、50周年を契機に、微力ながら今後もできることをしたいと心新たにしています。この度は、貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●中村 良平さん

高山市地域政策課長 田中 明 様ようこそお越し下さいました。卓話よろしくお願います。先月から会長の欠席が多く会長エレクト、副会長にはご苦勞をおかけしています。幹事生活もまだまだ5ヶ月、早く来い来い6月終わり…

●折茂 謙一さん

本日は高山市企画管理部地域政策課長、ご臨席有難うございます。ご講話楽しみにしています。

●新田 敬義さん、平 義孝さん、挟土 貞吉さん、田近 毅さん、齋藤 章さん、鴻野 幸泰さん

本日は、市企画管理部地域政策課 田中課長様にデンパーとの国際交流についてのお話を伺うことといたしております。大変お忙しい中ありがとうございます。

●濃飛分区ガバナー補佐 伊藤 松寿さん

本日、皆様のお手元に10月2日に行われた濃飛分区IMの報告書をお届けする事が出来ました。鍋島会長・脇本実行委員長はじめクラブ全員のご協力の賜物です。本当にありがとうございました。

●IM 実行委員長 脇本 敏雄さん

10月2日に開催されましたIMの報告書が、山都印刷 平さんのご努力によりまして立派に出来上がり、会員並びに関係各位に配布されました。これをもってIMに関する事業は全て完了しました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

●堀川 和士さん

①田中様のご来訪を歓迎します。
②2,3年続いた赤字決算も、本年度はようやく黒字。海も山も豊穡。あとは年末ジャンボ宝くじが当たるのを待つばかりです。

●垂井 政機さん

同期生の八九の会で、新そばを楽しむ会を催してくれました。脇本名人の腕のサエ、誠に見事でありました。北海道産と国産のそば粉の食べ比べの趣向も面白かったです。

●米澤 久二さん

富山県と飛騨地方が参加する飛越親善卓球大会に、富山市まで行ってきました。遠路参加した割には、あわや完全試合寸前の惨敗でした。誇るべきは、年齢順では参加者中ベスト5におそらく入っていたという事です。いつまで続けられるか分かりませんが、ベスト1を目指します。

●田中 正躬さん

先の結婚記念日にはお祝いありがとうございました。今日は都合により早引きします。よろしくです

●谷井 伸之さん

ニコニコ委員なので…

先月のニコニコ大賞 垂井 政機さん



受賞作 10/15分

チリの作業員、地底からの脱出誠に御同慶のきわみ。それにしてもリーダーの大切さ、ひしひしと感じます。